



共同通信



2007年10月7日 135号(345号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 35

『思いやるということ』

2週間ほど前、デイサービスでいつもと様子が違うと言われ夫の父はそのまま入院となりました。昨年の夏に介護認定を受け、ヘルパーさんに来てもらいながら香川で一人暮らしを続けていた父です。香川から出たことのない人で自宅で暮らすことにとてもこだわっていました。昨年、通院の為西宮に一週間ほど滞在した時にはとても不安定な状態になり、荷物をとりに帰っただけのつもだった香川の我が家に入った途端の表情の変化を目のあたりにしただけ(結局そのまま自宅に戻った)その思いは十分わかっているつもりでした。だけど、もしもの時(施設に入るなら)には西宮で、子どもや

孫の側にいるのが一番よいのだろう、と私は考えていました。入院のことを知らせてくれた伯母は電話口で「もう一人暮らしは無理よ、施設を考えて」と最後に付け加えたそうです。自宅に居たいという父の思いを誰よりも尊重していた夫にとってもこの一言は重かったようでした。

金曜日、子ども達を学校に送り出して二人で香川へ。病院の父を見舞い、お世話になっているケアマネージャーと話をしました。今後の事について、「施設に入るしかないかな、と思うんです」と夫が言ったとき、ケアマネさんは驚いていました。まさか、この息子(お父さん孝行と評されている)の口が

らその言葉を聞くとは思っていなかったのでしょうか。その後、近所のいろいろなタイプの施設を紹介してもらい、明日も父の様子を見るという夫と別れて私は西宮へ戻りました。

翌日になり、「施設を考えるなら私たちの近くがいいんじゃない？」と思いつき、西宮近辺のホームを探し、見学もしてみました。「善は急げ、夫の帰る前に具体的な提案ができるようにしよう！きっとお父さんもその方がにぎやかでいいはず」そのときの私の選択肢は施設の場所をどこにするか、だけでした。退院するときには香川か西宮（の施設）を選ばないとね、お父さんはどちらが気に入ってくれるかな？などが家で会話だったのです。

一方、これでいいのかという気持ちもあり、人生の先輩方に相談したところ「お父さんが望むことが一番、それをよく考えて」という話になりました。

父の望むこと？それは自宅に戻り、今までと同じ生活を送ることだと思えます。でも、これ以上の一人暮らしは不安ではないのか、寂しくはないのでしょうか。慣れない土地だけど、西宮に来てもらってにぎやかに暮らした方が父のためでは？入院中の病院から家族の付き添いをしてほしいとの連絡があったこともあり、何かあればすぐに会えるところに来てもらいたいという気持ちもありました。

一週間後、夫は香川へ向かいました。

夕方「おやじはすぐに家に帰りたいと言っている。これからも一人暮らしを続けられるように手配しよう。」と電話がありました。

やっぱり自宅で暮らすことが一番の希望だったのです。

父のことを思ってあれこれ準備したつもりでしたが、独りよがりだったのかもと考えさせられました。同時に私のこの思いは3年前に、余命3ヶ月と宣告された母が東京の病院にいたときにつぶやいた「西宮に行ってあなた達とゆっくり過ごしたいわ」という一言が忘れられないからではないか、と今回のことで気付きました。山が好きだった母と六甲山に登る約束をしていた年でした。「そうだねえ」と、私は返事をしながらもう少し病状が落ち着いたら、こちらの生活もあるし、などと曖昧なままにしていました。ところが次に会いに行ったときにはもう外出など望めない状態だったのです。たった二週間しか経っていなかったのに。あの時すぐに連れてきていれば母も私も少しは納得できる時間を持てたかもしれない、そんな思いがはっきりとではないのですが気持ちの奥にはずっと残っていたような気がします。

母に対する後悔の気持ちを父に近くに来てもらうことで自分を納得させたかった・・・訳ではないのです。実際、父の希望は自宅で暮らすことなので、今できることはこの気持ちに寄

り添ってできるだけサポートをしていくことしかありません。誰かを思いやるのは簡単だけど難しいことだとつくづく感じました。自分は善意で「してあげる」つもりがなかなか伝わらないことはよくあります。まあ「してあげる」という思いがすでに自分本位かもしれません。反対に相手の思いに気付くのもなかなか難しいものです。香川へ行った金曜日、夜遅く帰った私を留守番していた子どもたちは「宿題も、ご飯も、お風呂も、終わったよ～」と笑顔で迎えてくれました。さすがに、「こんなに遅いのになまだ起きてるの！」とは考えず「ありがとう～し っかりがんばったね」と言った（のか心でつぶやいたか自信がないのですが）私。二

人の気遣いをとても感じました。思い思われ、それを素直に感じられるのが幸せなのかな、と思います。この謙虚な気持ちが一日でも長く続きますように（笑）

この原稿を書いている心の中がすっかり整理されていくのがわかりました。煮詰まっていた気持ちをほぐすきっかけを与えてくださった本誌への投稿の機会に感謝です。

（富家 香麻里）

日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公同教会集会室

婆さま おれ年取 夫ではな 今朝が生まれて初めて入る嫌んならぬ
がするじや する縁側の日なたで糸を紡いでた9になる小十郎の母は その見
ないよな眼を上げて ちよ小十郎を見て何か笑ふ泣かするよ顔つきた

(なめと山の熊」宮沢賢治)

新約聖書で“泣いた”ことで後世に名を残すことになったのはペテロです。「するとすぐに、にわとりが2度目に鳴いた。ペテロは『にわとりが2度鳴く前に、3度わたしをしらないと言うであろう』と言われたイエスの言葉を思い出して、そして思い返して泣き続けた」(マルコによる福音書14章72節)。捕らえられたイエスのことで「弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った」弟子の一人であって、更に「あなたもあのナザレ人イエスと一緒にだった」と言われたことを“知らない”“打ち消し”“知らないと言いついて”そして、“・・・わたしをしらないと言うであろう、と言われたイエスの言葉を思い出して”“そして思いかえして泣きつづけた”という具合なのです。だとしてペテロは、いったい何を、何のことで泣いているのだろうか。イエスのことを“知らない”と“否認”したことで泣いているのなら、何かの形で“取り返し”が付かなかった訳ではありません。そのことの結果がどうなったかは別として、“弟子の一人です”と名乗

り出さないしは“否認はしない”などの選択はあり得たのですが、そうはならなくて、“逃げ去ったこと”“否認したこと”そして“・・・泣きつづけた”ことだけが書き残されることになりました。そうだとすれば“泣く”ということは、どうにもこうにも取り返しのつかないことの“帳尻”を合わせる営みの一つということになります。

そして当のイエスが“泣いた”ことについてはルカによる福音書に一カ所だけ書かれています。「・・・いよいよ都の近くにきて、それが見えたとき、そのために泣いて言われた『もしおまえも、この日に、平和をもたらず道を知ってさえいたら・・・しかし、それは今おまえの目に隠されている』」(19章41、42節)。

イエスがそのことで泣いたと言われる都・国家はそれこそ“城内の一つの石も他の石の上に残して置かない”ほどにローマによって破壊されます。そうして、破壊され“泣いた”出来事であったはずなのですが、ルカによる福音書はそ

のことを了解しているように読めます。都・国家の存亡にかかわる大事件で、結果そんなものがなくなっても“祈りの家”さえあればなんとかなるという具合にです。「彼らに言われた『わが家は祈の家であるべきだ』と書いてあるのに、あなたがたはそれを盗賊の巣にしてしまった」(19章46節)。

十字架にかけられたイエスは、そこで絶命し、アリマタヤのヨセフのはからいで手厚く葬られることになります。「彼らは、イエスの死体を取りおろし、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料を入れて亜麻布で巻いた・・・」(ヨハネによる福音書19章40節)。そんなイエスのことで“泣いた”人がいました。「しかし、マリヤは墓の外に立って泣いていた。そして泣きながら、身をかがめて墓の中をのぞくと・・・」(20章11節)。こうして泣いたとされる、マグダラのマリヤには、イエスのことで泣くだけの理由はありません。イエスとマグダラのマリヤとの出会いについて、ヨハネによる福音書はたびたび書いている訳ではありません。ただイエスが十字架に付けられた時、“イエスの十字架のそば”にいた数少ない女性の一人がマグダラのマリヤです。「さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロバの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた」(19章25節)。そのマグダラの

マリヤが泣いたのだとすれば、一つの生命が失われてしまう出来事のすべてを目の当たりにして、人として他の何もなし得なくて“泣いた”のです。この世界には、涙を流し、声を出して泣くことでしかそこに立ち止まれない出来事があります。人には、人にしか出来ないこととして、悲慘のただ中に“泣く”ことで立ち止まるのです。

(菅澤 邦明)

アコーク回一通信(115)

えー、11月です。沖縄では沖縄県立博物館と沖縄県立美術館が1日、オープンしました。沖縄戦争前、沖縄には博物館も美術館もありませんでした。戦闘が終結した後、沖縄を支配したアメリカ軍は、住民支配のために文化活動にも力を注ぎました。アメリカも徴兵制でしたから、兵隊の中には文化方面やら福祉方面のほうが得意な人々がいました。沖縄住民がまとまって収容されていた石川(現うるま市)に、民家をそのままに戦災をまぬがれたわずかなものが集められ「沖縄陳列館(東恩納博物館)」として開かれました。たぶん、観客はほとんど米兵だったかもしれません。首里にできた博物館さえ「米軍の好意」によって建てられたものでした。美術館は沖縄の歴史始まって以来の県立美術館です。そう、2007年に、です。ここでも沖縄近現代史のウラの課題が見え隠れします。まあ、美術、芸術なんてえものより、沖縄は食わなきゃならなかったのです。いや、沖縄タイムス主催の「沖展」は1949年第一回が開かれているのですから、製作者もおり観客もいたのです。もちろん、本家「日展」の名称を借りたのだと思います。戦前は朝鮮で「鮮展」(ママ)、台湾で「台展」がありましたからその名残りがあったかも知れません。当時の新聞記事を探したいものです。それで、体育館やら公民館を会場

に展示していたのでしょ。しかし、沖縄では常設の美術館は1991年開館の「浦添市立美術館」、1994年開館の個人立「佐喜眞美術館」を待たなければなりません。沖縄県としてはそれよりも先にやらなければならないことが多すぎたのは事実です。新しくできた博物館・美術館は那覇の新都心と呼ばれる地域にできました。両サイドは大型マーケット、正面はカラオケビルとまことに環境よく、館長は前副知事の天下りとなっています。スタッフは中高の美術教師、県教育委員会、県庁各部門、大学教授クラス、県内某マスコミの別部門、非常勤スタッフと多種多彩です。来年以降の購入予算は未定。ちなみに入場料は、常設展だけなら博物館・美術館で1000円程度ですが、特別展の場合は両方でお一人3000円程度、パンフレットなんぞをご購入の場合は5000円ほどになりますでしょうか、って馬鹿にするのも大概にしてもらいたいものです。たしかに、東京や関西に世界の美術品、特別展示があったときに「お流れ」を借りることが可能かもしれません。それでも沖縄は陸上輸送ができませんから莫大な保険料を上乗せされるでしょう。それが入場料に当然反映されるでしょう。無料券や割引券が撒かれたとしても大赤字でしょう。それでやるということは、時代には不釣合いな「八

コ・モノ」をつくってしまったということかもしれません。私、完成前に一度入りましたが、開館後はしばらくしてからゆっくりと見に行こうと思っています。いや、博物館・美術館に期待しているのです。特に子供たちや若い人たちに学んでほしいと思っているのです。

10月末、松山に行きました。沖縄の話と旧交を温める旅でした。久しぶりに路面電車に乗り、讃岐ではないうどんや韓国料理を食べ、沖縄ではない時間を過ごしました。楽しみにしてい

た博物館や美術館は曜日の関係でほとんど見ることはできませんでしたが、沖縄でない焼物＝砥部焼の、白の美しさに驚かされました。

沖縄で基地問題と政治、というゼミに参加しています。これ以上沖縄に基地をつくらせないという試みは様々な形で行なわれており、このゼミもそのひとつです。ただ、現実の政治の動きは早く、そして不可解です。「沖縄戦と朝鮮人」の学びも夏以来頓挫中。

はい、気合を入れなおします。

(沖縄・与那原 愛の園 後藤 聡)

「秋、秋、秋～！！」

去年に続き、今年の夏も暑くて暑くて～9月の残暑も厳しくて、8月よりも暑かったんじゃない！？と思ってしまうほどの暑さ。10月に入って、やっと秋を感じられるようになりました。暗くなるのが早くなったり、朝晩のひんやりとする空気、リンリンと聞こえる虫の声。日に日に秋が深まっていく感じがします。

食欲の秋！ということで幼稚園では10月に入ってすぐに畑でのおいも掘りが行われました。さつまいもの苗を植えてから約3ヶ月。太陽の光と空からの恵みの雨をたっぷりもらい、何より！みんなの、おいしいくて、大きなおいもが育ちますように・・・という

気持ちが伝わって、今年も実に多くのさつまいもを収穫することができました。総重量177キロ！！掘り終わって幼稚園に戻ってから掘りたてのさつまいもを蒸かして頂きました。自分達で掘ったさつまいも。それも掘りたてをすぐに頂けるなんて最高に幸せな時間です！苗を植えて、育っていく様子を何度も畑を訪れて見て、そして、幼稚園の全員でのおいも掘り！ただおいも掘りをするのとは訳が違います！だからおいしさも何倍にもなるんです！蒸かしいもに焼きいも、てんぷら！10月のお誕生会にも幼稚園のさつまいもを使ったおやつメニューが登場して畑のさつまいもを存分に味わうこと

ができました！そんな畑の恵みには感謝です。

さつまいもの他にもたくさんの秋が届けられ、みんなで味わうことができました。栗に柿！栗は栗ご飯にして～柿は柿でも渋柿！すぐには食べられませんが皮をむいて干して、おいしい干し柿になるまでお楽しみ～それに枝豆もたくさん届けられました。丹波の黒豆の枝豆！房についたまま届いたので、子どもたちと1つずつ枝豆をとって～と一仕事。その後はこちらで一仕事。枝豆の上の数ミリをハサミで切り落とします。そうすると茹でた時に塩味がよくきいておいしいのなんの～！たくさん届けられた枝豆も一瞬で子どもたちの胃袋の中へ～。今年もたくさんの秋が届けられ子どもたちと色々な秋を味わうことができました。

食欲の秋！も秋ですが幼稚園の秋はやっぱり甲山登山！今年も全クラスで甲山に登りました。各学年、その年齢に合わせてのコースで頂上を目指します。3歳児はふもとまでバスで行き、頂上へ。4歳児は途中まで電車に乗り頂上へ。そして、5歳児である年長組は幼稚園から歩いて頂上を目指します。それぞれルートは違いますが、同じ頂上を目指して歩きます。頂上に着いた時は抱き合ったり、手と手を合わせてハイタッチをしたりして喜びを分かち合いました。甲山登山を終えてまた1つ大きくなった子どもたちです。

11月に入りいよいよ秋本番！幼稚園では秋の歌を楽しんでいる子どもたち。うんどうかいやおまつりや～と歌詞にもあるように、今年も2007年度の運動会が能登運動場で行われました。それぞれが今持っている力を見せてくれました。天候にも恵まれ、地域の方々をはじめ、多くの方々のご協力により今年も無事に終えることができたことに感謝しています。また、たくさんの方々にも足を運んで頂き、みんなの思いがいっぱい詰まった1日となりました。

10日はいよいよ公同まつり！地域の方々との交流、懐かしい再会など人と人をつなぐ、素敵な時間になればいいなと思っています。

(水田 有希)

今月のあ・そ・び “ やじろべえ ”

子どもたちと拾ってきたどんぐり(まてばしいのどんぐり)で、“ やじろべえ ”を作ってみました。横棒がうまい具合にシなつて、重心を支える仕掛けができて、ゆらゆらゆれ続ける“ やじろべえ ”を作るのは、案外難しいのです。ハリガネを使い、簡単にできていろいろ遊べる“ やじろべえ ”を作ってみました。

- 1 .太さ1ミリ、長さ約20センチのハリガネの真ん中に直径2センチぐらゐの輪を作ります。
- 2 .どんぐりは“ 基部 ”の部分から先端に向けドリルを使い、1ミリの穴をあけます(貫通させる！)。
- 3 .ハリガネの両端を、どんぐりの穴に差し込んで貫通します。
- 4 .ハリガネの輪の部分を指先で支え左右のバランスがうまくとれるようになるまでどんぐりを移動します。
- 5 .バランスがとれたら、どんぐりの先に突き出たハリガネを曲げ、2～3ミリ残して切り取ります。
- 6 .ハリガネを差し込んだどんぐりの底の部分に木工ボンドをぬって固定します。

この“ やじろべえ ”は、重心を支える仕掛けが一体になっていて、そのままどんなものに乗せてもバランスがとれて遊べることです。指先はもちろん、頭のてっぺんでも、鼻の先でも、ペットボトルの上でも、リンゴの上でも、どこだっ

て“ やじろべえ ”してしまえるのです。ところで“ 難点 ”だったのは、ハリガネの輪の部分などが、簡単にぐにゃつと曲がってしまうことです。

そこで登場することになったのが、太さ0.7ミリのピアノ線です。輪の部分曲げるのに苦労しますが、そこさえうまくやれば、うまい具合にシなつて、重心の輪もくずれにくい“ やじろべえ ”になります。ピアノ線の弾力で、両端のどんぐりがぴこぴこ揺れながら、重心の輪が左右にゆれて、そこそこ長時間“ やじろべえ ”をするのです。

“ やじろべえ ”は漢字で書くと“ 彌次郎兵衛 ”だそうです。「・・・短い棒の先端に湾曲した横棒をつけ、横棒の両端に重いものを取り付け、棒を指先などで支えただけで釣り合いがとれているようにしたもの。つりあい人形。」「振り分け荷物を肩にした彌次郎兵衛人形から(「国語辞典」岩波書店)

(菅澤 邦明)

大切な贈り物・津門川 63

“新しい出会いをくれる津門川”

幼稚園の門を一步出ると、目の前に流れている津門川。ぼっぼぐみの子どもたちは4月、初めての散歩に出る時、一番最初に出会うのがこの津門川です。川を覗くことが大好きで、魚やカモ、カメ、サギなどを見つけるたびに立ち止まり、また少し進んでは立ち止まり～と、生き物達との出会いに大喜びしている子どもたちです。

お気に入りカメ。幼稚園から北へ少し上がったところの土管の中にカメがいるのを発見し、それからはおさんぽに行くたびに「カメみにいこう！」「カメさんいるかな～？」と、カメに会えるのをとても楽しみにしていた1学期の頃でした。石の上でひなたぼっこをしていたり、土管の中に入ったりまた出てきた

り、なんとナマズまで土管から出てきた時には驚いて、「いっしょにすんでるんやね～！！」と言っていた子どもたちでした。ところが次の散歩で見に来たとき、カメの姿がどこにもありません！「おひっこしたのかなぁ？」と残念そうなお子さんたち。しばらくカメを見ることができなかったのですが、2学期のある日、もう少し上流の方で出会うことができたのです！「あー！！カメがいる～！！」って大喜びのお子さんたち、そしてしばらく眺めていたのです。

たくさんの生き物が生活し、川沿いを歩くたびに新しい出会いや発見があり、いつでも私たちを楽しませてくれている津門川。これからも私たちの身近な存在であり続けてほしいと願っています。

(近山 佳奈)

2007年11月 あんなこと こんなこと...

- ・ 11月 10日(土) 午前11時～、公同まつり
- ・ 11月 13日(火) 午前10時～、ゆっくりと聖書を読んでみませんか
- ・ 11月 13日(火) 午後3時～、教会学校教師会
- ・ 11月 17日(土) 午後1時～、第10回津門川塾
- ・ 11月 18日(日) 午前10時45分～、幼児祝福式
- ・ 11月 23日(金) 兵庫教区信徒大会

にしきた商店街...

- ・ 11月 9日(金) 午後3時～、阪急高架事業説明会
- ・ 11月 13日(火) 午後1時30分～、街舞台実行委員会
- ・ 11月 14日(水) 午後2時～、商店街役員会
午後3時30分～、街づくり協議会
- ・ 11月 21日(水) 午後2時～、商店街臨時総会
- ・ 11月 22日(木) 午後1時30分～、街づくり作業部会
- ・ 12月 1日(日) コ・ルミナリ工点灯式

アートガレージ

- ・ 毎週木曜日 14時～17時、土曜日 15時～17時 開室日
- ・ 11月 6、20日(火) 丹波野菜市
- ・ 11月 6日(火) 午前11時～、nao-shin・LaLaLa ファンクラブ実行委員会
- ・ 11月 20日(火) 午前11時30分～、アートガレージ運営委員会
- ・ 11月 25日(日) 午後2時30分～、nao-shin・LaLaLa ファンクラブ結成記念パーティ

関西神学塾

- ・ 11月 11日(日) 午後7時～9時 講師 岩井健作 「岩井健作」の宣教学(55)
- ・ 11月 16日(金) 午後7時～9時 講師 勝村弘也 ヨブ記釈義(3)
- ・ 11月 30日(金) 午後7時～9時 講師 田川建三 マルコ福音書註解(中)(43)

教会学校から

《10月の活動報告》

10月7日(日)

作って食べる

日本の消費している穀物について学ぶ

“梅”おにぎりを食べる

10月14日(日)

ゲーム遊び

わなげ大会&たこやき選手権に参加!

10月21日(日)

ちょっといいこと

幼稚園の子どもと遊ぶ・ダブルダッチに挑戦

オリーブの収穫

10月28日(日)

作って遊ぶ

ピンポン玉ころがし競争!

青森から送ってもらったりんごを食べる

《11月の活動予定》

11月3日(土)

幼稚園運動会

11月4日(日)

作って遊ぶ

くるくるこまを作る

11月10日(土)

公同まつり

11月11日(日)

ゲーム遊び

射的大会

11月18日(日)

ちょっといいこと

外で遊ぶ

11月25日(日)

作って遊ぶ

まいのなんでも案内

もうすぐ京都を離れる友達にプレゼントを作ろうと、紙を切ったり貼ったりしていたのですが、「あーやっぱ図画工作好きやわー。てかあたしうまくない？向いてるんちゃう？」などとうっかり悦に入った瞬間にハサミが左中指の腹の皮を剥いていきました。・・・あううう。非常に痛くてパソコンのキーボードうつのもちょっと億劫です。最近(というかいつもですが)色々ぶついたり切ったり、小さな怪我が多くて、就職活動でよくある「あなたのキャッチフレーズは？」という質問に、「生傷の絶えない女です」なんて答えてやろうかと思うほどです。いや、しませんけど。あたしが採用側ならそんな年中血まみれみたいな人間絶対嫌だ。

そんな感じで、あっという間に今年ももうあと2ヶ月なのですが、スケジュール管理が全くできてなくて、今月来月、一体どういうスタンスでどういう生活になるのかさっぱり分かっておりません。とりあえず10月末から11月初めにかけては、ハロウィンパーティー(黒ドレスで登校したら色んな人に振り返られました)やら東京事変ライブ(後述)やらm-floライブ(大変でした)やらKREVAライブやら、イベントが盛りだくさんでした。先月も触れましたが、やっぱり音楽は良いですね。生で聴くと尚良いで

す。ドラムとベースの振動が伝わってくる感覚が大好きです。

と、いうわけで、最近近況報告で終わりがちなこの連載、今回は久々に紹介をしたいと思います。まあお題は「東京事変」なんです。愛が深すぎて語りきれないので、敢えてライトにいきます。まず、「東京事変」とはバンドです。カテゴライズは難しいのですが、ロック、でしょうか。ボーカルの椎名林檎さんは私の理想であるお方でして、5年以上前にソロで売れていらっしまったのですが、3年前、ソロでできることはやり尽くした、ということで、それぞれの楽器のエキスパートを集めて結成したバンドが東京事変です。一回、ギターとキーボードのメンバーが代わったのですが、いずれのメンバーも遜色劣らぬ演奏家として、ただの「歌モノ」として聞き流すには惜しい曲ばかりを発信しています。今のメンバーを簡単にご紹介しますと、ベースが、亀田誠治師匠。椎名林檎さんがソロデビューするときからずっとサポートされてる方で、スピッツなどのレコーディングにも参加されています。ドラムは、刃田綴色(はたとしき)さん。通称「トシちゃん」。とても小柄で身軽で、身体全体で叩く姿が印象的です。お神楽も踊れてしまうという。ギターが長髪メガネの浮雲さん。勿論本名じゃないです。自

分のバンドでは本名で活動されていますが、東京事変ではあくまで「浮雲」氏。もう、めっちゃ素敵です。東京事変の3枚目のアルバムではかなり作曲も担当されているのですが、彼の世界観は独特です。インタビューでもクールなんだか何なんだかよく分からないことばかり言ってらっしゃって、まさに「雲」です。掴めない。そして最後がキーボード(というかピアノ?)の伊澤一葉さん。通称「わっち」。彼もなかなか独特でして、およそロックバンドのメンバーらしからぬ方です。私、バンドの鍵盤がピアノなのがとても好きで、今回のライブでもわっちに釘付けでした。前キーボードのH2M(ジャズバンドPE'Zのヒイズミマサユ機氏)氏の紹介で、林檎さんが知ったそうなんです。彼も相当に音楽センスがありつつ姿勢がユニークで、ライブでもインタビューでも、よく天然に失言をされていて面白いです。

東京事変のすごいところの1つは、全員(トシちゃんはないけど)が作詞作曲をできることです。私は邦楽を結構聴きますが、全員がここまで音楽技術と創造性を持つバンドはなかなかないと思います。しかもジャンルが統一されていなくて、全員が様々に順応できる。それぞれが東京事変以外に活動をしている、という姿勢も良いのかもしれない

ん。バンドでも作家でも、長く活動するとどうしても方向性が定まってしまうものですが、彼らは常に新しいことをやり続けてほしいなと思います。これからも私の「一生もの」でいてほしいなと。機会があれば是非聴いてみてください。

つとがわ 編集後記

寒い寒い冬がやってきます。寒いのはそんなに弱くはないのですが、しばらくの間でも、寒さにさらされると指先が血行障害で“白化”するのと、耳のしもやけに悩まされることになります。その“予防”の為病院で検査したところ、“ユベラルソフトカプセル 200 mg”を処方され、一週間後の再検査で“オパール錠 5 mg”を処方されました。で、その薬は2、3ヶ月間服用し続けないと効果はないと、薬剤師さんに言われています。薬というものを服用し続けるのは、今までしたことはありませんので、ちょっと困ったなと思っています。もちろん“白化”もしもやけも困るのですが。

(K)

肌寒く、朝布団から出るのがつらくなってきました……。寒いのが苦手な私はとうとうこの季節がきたかー！という感じです。11月に入り運動会、おまつり、楽しいことが盛りだくさんです！子どもたちの間ではもうクリスマスの話もちらほら～「もうクリスマス?!」なんてびっくりしてしまいました(笑)
夏が長く、秋がもう終わろうとしていて、冬が近付いています。時の流れの早さに驚いています。

(N)

先日、幼稚園の運動会が行なわれました。気持ちのいい秋晴れの空の下、子どもたちがそれぞれに自分の力を出して歌ったり踊ったり走ったり。一生懸命な子どもたちの姿にたくさん感動をもらいました。

また、お母さん方、お父さん方、おじいちゃんおばあちゃん、そして卒園した子どもたちもたくさん参加してくれて、みんなで作りあげたとても素敵な時間になりました。みんなの笑顔にたくさん出会えていっぱいパワーをもらいました！

(Y)

「そら、あおいなー!!」年長ぐみの子どもたちと山へ登っています。子どもたちの足でこんなに歩いちゃう? ってぐらい歩きます。時々疲れて「もうあかん・・・」「まだつかへんの?」そんな風に言う子どもたちもいますが、でもふと見上げた空の青さに感動して思わず足をとめて「きれいやなあ・・・」とポツリ。空ってこんなに青いんだ……。山から見上げる空は今にも手が届きそうで空だけ見ると空の中にいるような気がします。子どもたちと歩くたびに山が好きになる。とてもいい時間を与えられているなあ、心からそう思います。秋は空の青がキレイです。お天気のいい日にはフッと立ちどまってみんなで空を見上げませんか?

(I)

前月に、娘が結婚するということを報告したこともあって、お祝いのメッセージなどいろいろいただいた。感謝です。で、「さびしくなりますね」とも声をかけていただいた。が、まあ年末年始等の食事の折の取り皿が1枚増えるだけ、食卓がにぎやかになるから楽しみですよと返事。と、娘が「あのマイセンのグラスもよろしくね」、6個入りの正月にだけ登場する乾杯用の、いつもは箱の中に鎮座している特別な奴。えっ、取り皿だけではないんか、取り皿ならすぐにでもあるのに。加えて彼氏が「おかあさん、大晦日の夜、車どこに止めたらいいですか」、えっ泊まるんかいな、布団ももう一組いるではないか。そういうことで“さびしい”などと言うような状況ではないのです。でも冷蔵庫の中の管理やストックしてあるものについての厳しいお目付け役がいなくなるのは困る。あそこにしまってる、まだこのくらいは残ってる、など彼女は我が家のコンピューターなのだから

(J)